

Title	目で見るWHO 第49号 事務局だより・奥付等
Author(s)	
Citation	目で見るWHO. 2012, 49, p. 20
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/86755">https://hdl.handle.net/11094/86755</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## ●共同企画フォーラムの開催のお知らせ

日本国際保健医療学会 学生部会(jaih-s)との共催企画を開催いたします。国際舞台での活躍を目指す若者のご参加をお待ちしております。

### 『国際保健×地域医療』 ～日本の地域医療から国際保健のフィールドでの生き方を考える～

- ◆趣旨 今回は、テーマを国際保健と地域医療として、この分野でご活躍される3人の講師をお招きして講義二つとワークショップを行い、参加者が国際保健医療のフィールドでの生き方、夢へのアプローチの仕方を模索できる機会にします。
- ◆日時 2012年9月23日(日) 12:00～17:50
- ◆会場 大阪大学 中之島センター(大阪市北区) <http://www.onc.osaka-u.ac.jp/others/map/index.php>
- ◆参加人数 100人
- ◆参加費 500円(懇親会参加される方は別途 3000円を予定)
- ◆申込み方法 8月20日より jaih-s の HP <http://www.jaih-s.net/> にて参加募集を開始  
お問い合わせは、[knowledge@jaih-s.net](mailto:knowledge@jaih-s.net) まで【日本 WHO 協会×jaih-s 企画について】と明記の上ご連絡ください。

12:30-	<p><b>講義1「国際保健と地域医療」</b>(TICO代表理事 吉田修先生)</p> <p>近年、ヒト・モノ・カネなどの限られた資源の中で医療を提供していかなければならない状況や、その地域で暮らす住民の生活や環境、文化を捉えたうえでのはたらきかけが必要とされる点、総合力が求められる点など、国際保健医療と日本の地域保健医療には共通している部分が多いといわれています。本講義では、国際保健医療と地域保健医療の共通性を学び、国際保健医療を志すにあたり、日本に存在する地域保健医療も視野にいれたキャリアパスについて考える機会となることを期待しています。</p>
13:40-	<p><b>ワークショップ(WS)途上国と日本におけるPHC</b>(講師 未定)</p> <p>講義1でも説明いただいたプライマリ・ヘルス・ケアについて、国際保健医療の現場と日本の地域保健医療の現場でのケーススタディを通してそれぞれの観点から深く理解していただきます。また、この点を通して、国際保健医療の現場で働くことと、日本の地域保健で働くことの意義を学び、将来の一つの選択肢として考える機会となることを期待しています。</p>
16:10-	<p><b>講義 2 CBR の視点から見た地域の取り組み</b>(ベトナムの子どもたちを支援する会 坂東あけみ事務局長)</p> <p>WHO が 1978 年に出したプライマリ・ヘルス・ケア(PHC)政策の一環として、CBR(Community Based Rehabilitation=地域に根ざしたリハビリテーション)という地域開発におけるすべての障害者のためのリハビリテーション、企画の均等、社会への統合のための戦略が定義づけられ、CBR は先進国、発展途上国を問わず、リハビリテーションの基本として広く認知されるようになりました。</p> <p>本講義では、CBR の概念について理解することから始まり、CBR の活動が、国際保健医療と日本の地域保健医療のそれぞれの舞台でどのように行われているのか、そして社会の配慮が行き届きにくい障がい者が、自ら主体となって地域の健康づくりにかかわっていく重要性を学んでいただきます。さらに、CBR はすべての人の社会参加を実現するための重要なツールとなることを学んでいただきます。途上国そして日本で展開する CBR の今後の可能性を認識し、将来参加者が国際保健医療に携わるにあたり、生かしていくきっかけとなることを期待しています。</p>
17:10	講評
17:30	クロージング

企画内容はjaih-sの樋口朝霞さんによる

# 第16回 関西感染症フォーラム (FInD in Kansai)

本年4月1日より、院内感染対策に関する取組を推進し感染制御体制の構築と地域連携の向上を図る目的で新たに感染防止対策加算1(400点)と加算2(100点)の徴収が可能となりました。感染防止対策加算を得るための施設基準は、一般病床300床以上か未満で区別されていますが実施すべき具体的な対策項目はほぼ同じです。新たな感染防止対策加算の最終目標は、全ての医療施設における「安全な医療の提供」です。これまで、多くの病院において感染管理に十分な専任・専従者を配置できない状態が続いていましたが、この感染制御の役割が大きくなりつつある「今」が院内感染対策を再構築する絶好の機会です。

本フォーラムを「感染防止対策を学ぶ方々の地域連携の場」となりますように皆様と一緒に努力していきたいと考えております。皆様の多数のご参加をお待ち申し上げます。

代表世話人 一山 智

日時 2012. 7. 21 sat 13:00 - 17:00 (受付 12:00 ~)

会場

大阪市中央公会堂  
大集会室

総司会 大阪大学医学部附属病院 感染制御部 副部長 浅利 誠志 先生

13:00 - 13:05 挨拶 京都大学医学部附属病院 検査部・感染制御部 部長 一山 智 先生

13:05 - 13:20 話題提供「医療器具用洗浄剤の正しい使い方・選び方」サラヤ株式会社

## 講演 1

13:20 - 13:50  
(質疑応答込み)

### 「多剤耐性アシネトバクターのアウトブレイク経験から考える 環境管理と接触予防策」

座長 大阪大学医学部保健学科 教授 牧本 清子 先生  
講演 福岡大学病院 感染管理認定看護師 橋本 丈代 先生

## 講演 2

13:50 - 14:50  
(質疑応答込み)

### 「これは効く!手指衛生を良くする3つの方法」

座長 大阪労災病院 外科 副部長 清水 潤三 先生  
講演 順天堂大学医学部附属順天堂医院 感染対策室 室長 堀 賢 先生

休憩 14:50 ~ 15:00

## 講演 3

15:00 - 15:50  
(質疑応答込み)

### 「2012 年は麻疹排除目標年です — 現状と今後の展開 —」

座長 京都薬科大学 教授・副学長 後藤 直正 先生  
講演 国立感染症研究所 感染症情報センター 第三室 室長 多屋 馨子 先生

## 講演 4

15:50 - 16:50  
(質疑応答込み)

### 「アメリカ CDC の感染対策ガイドラインをどう活かすか?」

座長 京都大学医学部附属病院 検査部・感染制御部 部長 一山 智 先生  
講演 山形大学医学部附属病院 検査部 部長・病院教授 森兼 啓太 先生

#### 特典

本会は日本医師会生涯教育制度、兵庫県・京都府・奈良県病院薬剤師会生涯研修制度に該当する会として所定の単位が認定されます。

#### 参加費用

お一人様 テキスト代込み **1,000円** (当日受付にてお支払いください。領収書を発行いたします)

#### 申込方法

裏面の申込用紙に必要事項をご記入のうえサラヤ(株)学術部内 講演会事務局までFAXにてお申込みください。

#### 特記事項

申込み受付後、事務局より「受講票」をお送りします。(6月末より順次送付予定) **受講票は当日忘れずにご持参ください。**なお、**定員900名**になり次第締め切り致します。受付は先着順となりますのでお早めにお申込みください。

#### お問い合わせ先

サラヤ株式会社 学術部内 講演会事務局 〒541-0051 大阪市中央区備後町4-2-5  
TEL : 06-4706-3938 FAX : 06-6209-0242

共催：関西感染症フォーラム (FInD in Kansai) / 社団法人日本WHO協会 / サラヤ株式会社  
事務局：大阪大学医学部附属病院 臨床検査部 / 感染制御部 浅利誠志 TEL.06-6879-6680

## 前号(第48号 春号)のあらまし

近未来の妊婦見守りシステム開発 小林 浩  
遠野市助産院「ねっと・ゆりかご」 菊池幸枝  
jaih-sとの共同企画フォーラム開催報告 編集部  
「国際保健 フィールドマッチング」企画に参加して  
「ケニア国ニャンザ州  
保健マネージメント強化プロジェクト視察」 武智 彩  
「 Bangladesh でみた人と人とのつながり」 橋場文香  
ケニア国ニャンザ州  
保健マネージメント強化プロジェクト見学 塚本 裕  
jaih-sフィールドマッチング企画による  
ラオスでの実習 小田垣彩花

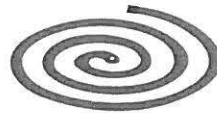
## 前々号(第47号 秋号)のあらまし

多剤耐性結核の制圧のために 樫野 巨・小野崎郁史  
アフリカからの報告  
健康なアフリカ社会をめざして 中村 安秀  
Wash a Million Hands in Uganda 2011 現地レポート  
「子どもたちの命を守る手洗いを、世界に広めたい。」  
代島 裕世  
ケニアの母子の健康を守る、  
住民たちの母乳育児推進活動 佐伯 享  
～エイズ対策に携わる青年海外協力隊～ 籠田 綾  
モザンビーク共和国 大町 佳代  
ガーナ・若者の行動変容に向けた  
HIV/AIDS 予防啓発手法 白井 美穂  
震災特集  
東日本大震災を振り返って  
ークラスターアプローチは日本でも有用かー  
國井 修

広告

 **KINCHO**

 **GOOD DESIGN  
AWARD 2011**



「金鳥の渦巻」は  
2011年度グッドデザイン・ロングライフデザイン賞(経済産業省製造産業局長賞)を受賞しました。

[www.kincho.co.jp](http://www.kincho.co.jp)

## ●公益社団法人 日本WHO協会 事務局だより

日本WHO協会では、本年4月1日公益法人に移行し、4月20日には寄付金について税額控除対象となる証明も受領致しました。これにより、賛助会費を含め当協会への寄付については、個人の所得税では確定申告により税額控除か所得控除かのいずれか有利な方を選択して税の軽減を受けることができるほか、相続税や法人税でも優遇措置の対象となり、ご寄付いただく皆様方のご負担を税制面で実質的に軽減できることとなりました。

優遇措置による控除額の算式などの詳細内容については、協会ホームページでも閲覧頂けますが、該当寄付を頂戴する毎に、領収書とともに申告に必要となる税額控除の証明書を添付した説明文をお送りさせていただきます。

世界の人々の健康のために、という私たち協会の活動は、事業目的に賛同頂き寄せられる皆様のご支援に支えられています。皆様の公益にためのお志を活かそうとする優遇税制の趣旨を戴し、協会としても事業目的に沿った一層の活動充実に努めますので、これを機にご支援の輪を広げていただけるよう何卒宜しくお願ひ申し上げます。

グローバルな視野から健康を考え、国の内外で人々の健康増進につながる諸活動と WHO 憲章精神の普及活動を展開しています。私たちの活動に賛同し、継続のご支援頂ける方のご入会をお待ちしています。

会員種別	年会費	
正会員 個人	50,000円	
正会員 法人	100,000円	
個人賛助会員	1口	5,000円
学生賛助会員	1口	2,000円
法人賛助会員	1口	10,000円

※(公社)日本WHO協会推奨商品等の禁止について

当協会では、特定の商品やサービスについてその品質性能等をWHOに関連付けて評価・認定・推奨するような活動は一切行っておりません。また、会員に対しても倫理規定を設け、当協会名を利用して消費者に誤認を与えるような商品販売・広告等の営業活動を行うことのないよう周知徹底いたしております。もし、当協会が関与したかのような事象にお気づきの場合は、事務局までご一報下さい。社団法人日本WHO協会

機関誌 目で見えるWHO 第49号

2012 夏号 平成24年 7月15日 印刷  
平成24年 7月21日 発行

編集者 松浦 成昭 中村 安秀  
発行者 関 淳一  
発行所 (公社)日本WHO協会  
〒540-0029 大阪市中央区本町橋2-8  
大阪商工会議所ビル5F  
TEL 06-6944-1110 FAX 06-6944-1136  
E-Mail info@japan-who.or.jp  
URL <http://www.japan-who.or.jp/>  
印刷 大光印刷株式会社 TEL 06-6714-1441

無断転載お断りします